八尾市教育センターNEWS

令和６年10月
所報：　４０２号

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから

『そだちのねっこ』

～乳幼児期の遊びより～

【「これなあに？」「あれなんだ？」「いってみようかな？」
～大人が安心の基地としてあり続けるわけ～】

０歳児の様子

９月４日（水）、０歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。テラスでは、ジョーロに水を入れてジャ～っと流して、保育者を見ています。保育者の優しい笑顔と「お水、気持ちいいね～」「ジャ～できたね」の声を聞き、再び水遊びを楽しむ子どもがいました。

室内では、絵本を見ながら絵を指さして、保育者を見ています。「ワンワン」「りんご」「元気もりもりです」など、答えてくれる保育者の反応を確かめながら、絵本をめくる子どもの姿が見られました。また、保育者が「ここまでおいで～」と人形を使って誘いかけると、自分で段差を上り坂道を滑った後、保育者を見て、手をパチパチさせ自分でできた喜びを分かち合っていました。牛乳パックで作られたおうちに入り、向こう側が見えるか見えないか絶妙なのれんから、「ばあ！」と顔を出して、保育者にアピールして笑顔で繰り返し遊ぶ姿もありました。

さらに、食事の場面では、大きな口を開けて食べる姿、自分で食べようとする姿があり、対面の保育者に「おいしいね～」「もっとたべる？」など声をかけられていました。食材を見て、触って、匂って、味わって五感をフルに使っている姿が、とてもかわいらしくて、見ている私も同じように「あ～ん」と口を開けてしまうほどの居心地のよさを感じました。

どの姿にも共通しているのは、遊んだり、行動したりした前後には必ず大好きな保育者の【顔】を見ることです。これは、４月に入園し、新しい環境に慣れずに不安でいっぱいだった子どもたちが、担当保育者の寄り添ったかかわり、温かいまなざしと声かけによって、『安心基地（保育者）』と感じられるようになったという証です。

『安心基地（保育者）』がいるという安心を感じることで、自分から『外の世界』へ行こうとする気持ちが芽生えます。【『安心基地と外の世界』を行ったり来たり繰り返すこと＝『安心感の輪』】こそが、生涯発達の土台となるため、とても重要になってきます。

また、『外の世界』では、発達年齢に合った、心をくすぐる環境や玩具の準備、保育者のか

かわりや声かけが大事になります。音が鳴る・なめても口に入れても安心・指先や手を使って遊べる玩具・少しの段差を上り下りや伝い歩きができたり、自由に全身を使えたりする環境など安全面も考慮し、遊びを通して発達を促していきます。

まだ言葉を発しない０歳児であっても、今日の見学で見られた、保育者の自然な声かけが安心感とともに、発語にもつながるとわかりました。また、自発的な『遊び』こそが『学びの芽』であることも確認できました。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】に関連させてみると、『健康な心と体』『自立心』『豊かな感性と表現』につながる芽生えがありました。

幼児教育研修＜特別支援教育・保育研修②＞

令和６年８月２７日（火）午後３時～午後５時に幼児教育研修＜特別支援教育・保育研修②＞を本市水道局４階大会議室で行いました。講師は武庫川女子大学の　新澤　伸子　教授で、研修テーマは「気になる子どもの保護者支援について～具体的な支援の方法を考える～」です。

＜受講者感想＞

- 保護者の悩みに寄り添い、困っていることに耳を傾けながら、お互いに本音が言えるような関係性ができるようにしていきたい。
- 保護者が楽しく子育てができるように「伴走者」となり、子どもが安心して過ごせる環境づくりを大切にしていきたい。そのことで子どもと保護者の愛着の形成につながり、保護者が子育てに自信が持てるようにサポートしていきたい。
- 「注意引き行動」に対して、ただただ叱る、望ましい行動をとらせようとするのではなく、環境を整備する、見通しを持たせる、困り感の背景に目を向ける、といったことが大切だと思った。

幼児教育研修＜子育て支援研修＞

令和６年９月５日（木）午後３時～午後５時に幼児教育研修＜子育て支援研修＞を行いました。講師は大阪大谷大学　河野　清志　准教授で、研修テーマは「保護者支援　子育て支援の視野を広げよう～子育ての伴走者として支え合うかかわりを大切に～」です。

←研修資料の一部

＜受講者感想＞

- 解決思考アプローチのソリューション・トークをリソース探しで行い、問題を解決していけるように日々親子支援を行っていきたい。
- 保護者からの相談には、原因ばかりに目を向けるのではなく、解決策を提案できるように、思いに寄り添いながら、ポジティブになれるような声掛けをしていきたい。
- ソリューション・トークでは「例外探し」をして、たくさんの「成功体験」・「できていること」を見つけて着目することで、解決策の糸口を見つけることができるということを学んだ。

※「解決思考アプローチ」＝問題や原因ではなく解決に焦点を当て、自分の望む未来を明確にして、自分のもつ力や可能性に気づき、解決を築き上げていく技法。

※「ソリューション・トーク」＝解決思考アプローチを基礎としたコミュニケーション技法。

※「リソース探し」＝その問題を解決するためにやってきたこと、自分でもよくやったと思え

ること、その解決に少しでも協力や心の支えになっている人やモノ、環境などを探すこと。
※「例外探し」＝そのこと（問題）を抱えているにも関わらず、少しでもうまくやれていること、これからも続いてほしいことを探すこと。

通級指導教室担当者会⑦

令和６年９月６日（金）午前９時３０分～午前１１時３０分に通級指導教室担当者会⑦を行いました。講師は藍野大学医療保健学部作業療法学科で講師で「FLOW 八尾」 テクニカルアドバイザーの　高畑　脩平　さんで、研修テーマは「子どもの行動理解とサポート～作業療法・感覚統合の視点から～」です。

←研修で使用した資料の一部

＜受講者感想＞

・固有感覚と前庭感覚について、具体的な例を挙げて説明していただいたので、理解するとともに納得できた。また、通級の児童の中にかなり活発に動く児童がいて、その行動の理由が感覚の貯金としてやっていたかもしれないと思うと、児童へのアセスメントも変わってくると思った。

・ものすごく勉強になった。「作業療法」について本格的に勉強したいと思うようになった。心当たりのある症状のある子はたくさんいるので、刺激を与える方法を試してみたいと思いう。

・眼球運動が苦手な子に対して、目へのアプローチの前に体に対するアプローチが必要だということを学び、また事例を動画などとともに紹介していただき、とてもわかりやすかった。もっともっと具体的に学校で取り組める実践を教えていただきたいと思った。しっかり学んで実践に活かしていきたい。

内容別特別支援研修Ｂ（視覚障がいに関する内容）

令和６年９月６日（金）午後３時３０分～午後５時に、内容別特別支援研修Ｂを行いました。講師は大阪府立大阪南視覚支援学校　村江　鉄平　指導教諭で、研修テーマは「視覚障がいのある子どもの理解及び指導の実際」です。

←研修で使用した資料の一部

＜受講者感想＞

・視覚障がいには様々な種類があり、その程度も人によって異なるということを学んだ。２年前に障がい者理解教育で視覚障がいをテーマに授業作りをしたが、視力や視野について、その時以上に理解が深まった。視覚のシミュレーションで、より視覚障がいの見え方を実感することができた。

・「子どもたちの安心・安全のため」と何度も仰っていた事が印象に残った。集団の中で弱視の児童に支援していく上で、どこに重きを置くのか（他の児童も含めて）に悩んでいたのでいたが、一つの軸として「安心・安全」が大事ということを再認識した。

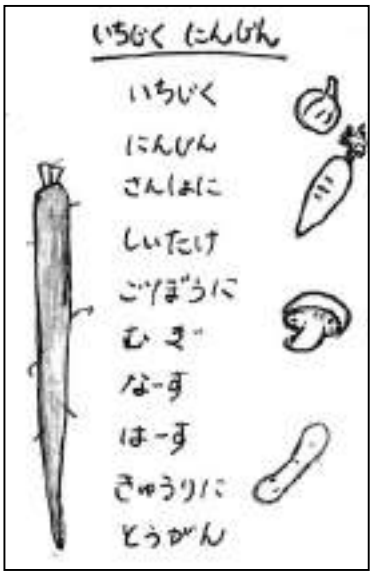
・視覚障がいの児童について見え方が児童それぞれ違うということを改めて理解できた。担任する弱視児童について、どのような見え方でどのような支援が必要なのかをしっかりと見極め、適切な支援ができるようにしていきたい。また、次の学年、またその次の学年と上がっていくにつれてより支援できるよう引継ぎをしっかりと行うこと・継続的な教育相談が必要だと感じた。

通級指導教室実践検討会②

令和６年９月 13 日（金）午前９時３０分～午前１１時３０分に通級指導教室実践検討会②を行いました。講師は発達支援ルームまなび　今村　佐智子　理事で、２小学校の実践報告について、参加者のグループ討議と講師による指導・講評をいただきました。

＜受講者感想＞
・１年生の対応の難しさを感じた。キーパーソンを中心に関わる全ての教員が同じスタンスで関わることが安定に繋がると思う。
・保護者理解の重要さは日常的に感じている。今日の研修で、保護者理解につながる手立てを知ることができました。
・アセスメントの重要性について、いつも繰り返し感じさせられる。書字についての課題（原因・要因は様々）に対しての手立てのヒントを得ることができた。集中すれば２・３字はできる！という児童も担当しているので、学級担任と相談して目標への見通しを見直したいと思う。

幼児教育研修＜保育のための基本研修①＞



令和６年９月１３日（金）午後３時～午後５時に幼児教育研修＜保育のための基本研修①＞を八尾市立南山本せせらぎこども園遊戯室で行いました。講師はわらべうたの会「わたぼうし」代表　中西　知子　さん他４名のメンバーで、研修テーマは「わらべうたと絵本　明日から活かせるわらべうたと絵本」です。

←スライド資料の一部

＜受講者感想＞
・子どもたちにとって絵本の読み聞かせが心の根っこの育ちにつながるということを学んだ。わらべうたは「慈しみの気持ちをこめて伝える言葉」という言葉が心に残った。
・保育者が子どもの前で歌うとき、子どもたちは言葉を知ったり、リズムを楽しんだり、体に刺激を受けたり、様々なことを感じているということが理解できた。
・子どもたちの心が豊かになるような、具体的にイメージしやすいような絵本を選び、ゆっくり丁寧に読み聞かせを行っていきたい。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターＢ棟（東側）の２階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も２週間の貸し出しを行っております。今回は９月から 10 月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）１０月号
・特集１　「自分を好きになる」ってどういうこと？

２２頁に「『良さ』を引き出し、『好き』の好循環を生む」と題して網走刑務所（北海道）門間　伸　専門官が寄稿されています。著者は自分のことが嫌いで、学校に馴染めなかったそうです。３年生で担任になったＳ先生と出会って、折に触れて「ほめて」もらったことをきっかけに、学校へ適応し「人を教える仕事」を目指すようになられたそうです。そして１９９７年に北海道の少年院に「法務教官」として就職されました。当時はまだ『暴走族』が猛威を振るっていた時代ですが、少年院の中では「明るく素直」な少年たちだったそうです。そこで著者は先輩教官から「子どもたちとどんどん“かかわり”なさい」と教えられたそうです。最初は、その意味がわかなかったそうです。その後２０年以上勤務して、それは「子どもたちの一挙手一投足に関心を持ちつつ接する」ことだ、と今は思っておられます。問題行動を繰り返す自分自身が「嫌い」になってしまった子どもたちが、自分自身を「好き」になっていくためには２つのポイントがあるそうです。一つ目は「問題行動そのものよりも、その中で発揮されたその人なりの良さに着目してほめる」こと。「どんな自分であっても見捨てられなかった」という経験が「自分を好きになる」という好循環の始まりの一つになるとのことです。二つ目は、「日頃の声かけ、雑談を大切にする」ことです。設定された場所での面接だけでなく、日常生活の中でも会話を重視されているとのことです。その中で、自分の「良さ」に気付き、更生への「好循環」のきっかけとなるとのことです。　（葭仲）

・特集２　子どもの特性を受け入れられない保護者

「指導と評価」（日本教育評価研究会）１０月号
・特集１　自立的な学習者を育てる

８頁に「自立的な学習者を育成するために、どこまで子どもにゆだねるか―『自立』のために必要な支援・指導―」と題して名古屋大学大学院教育発達科学研究所　中谷　素之　教授が寄稿されています。要旨は「①コロナ禍を経て学びのデジタル化やユニバーサル化が進むなか、自立的な学びは、未来の学びの基盤となる。②自己調整学習や自己決定理論等の研究から、単に子どもに任せるだけでなく、適度に理解や習得を促したうえで、子どもの思考や興味を重視する支援・指導が有効である。③自由進度学習やプロジェクト型学習など有効な手法は存在するが、真に『子ども自身が主体性を実感できているか』を確認しつつ実践することが肝要である。」とまとめられています。①については授業における ICT の活用が進んだことや、探究活動のために時間が確保されつつあるということを紹介されています。②については令和３年中央教育審議会答申に明記された『学びの自己調整を』を中核的なキーワードとし、その両輪として『学びの個性化』と『指導の個別化』を挙げられています。③については「やる気、すなわち動機付けの研究理論の代表例である自己決定理論では、子ども自身が自ら考え、行動を決定することが、学習や仕事、そしてウェルビーイングを高めることが理論化され実証されてきた。」としながらも、近年我が国においては「本人自身が考え、決めるために、問題を段階に分けてわかりやすく説明したり、模範例やヒントを示して考えさせるといった、より支援的な側面の重要性が注目されている。」とも述べられています。これらについて１０頁の「表１　自立した学習のため２種類の指導・支援」として表にまとめておられます。最後に、「『自立』した学習者を育てる教師と授業」では「結果だけでなく学習のプロセスをとらえ、正解だけでなくそのための考え方やヒントをその子に合うように教え、子ども自身が動き出すことを感じ取る。」ような授業が求められるとされています。　（葭仲）

「道徳教育」（明治図書）１０月号
・考え、議論したくなる授業に変わる　しかけ大全

「特別支援教育」（文部科学省編集・東洋館出版社）令和６年秋　№.９５
・特集　自立活動の指導の充実

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）１０月号
・特集　入試と合理的配慮　～支援を縦に横につなぐ連携～

「初等教育資料」（文部科学省教育課程課・幼児教育課編集　・東洋館出版社）１０月号
・特集Ⅰ　地域社会との連携を生かした教育活動の充実
・特集Ⅱ　[算数]算数科における資質・能力の育成と子供のつまずきの解消

「中等教育資料」（文部科学省教育課程課・学事出版）１０月号
・特集　[中学校]各教科等を交えて語り合う①　～資質・能力の明確化～

教育科学「国語教育」（明治図書）１０月号
・特集　書くこと　日記、報告文、意見文から創作まで　指導全解剖

８頁に「『書くこと』で教える文種と指導の要点　中学校で教える文種と指導の要点」と題して和歌山信愛大学　小林　康宏　教授が寄稿されています。現行の「中学校国語科学習指導要領」では　「ア）主として説明的な文章を書く言語活動　イ）主として（ ① ）的な文章を書く言語活動　ウ）主として文学的な文章を書く言語活動」の三つに分類されて示されているそうです。では（ ① ）に入るのは何という言葉でしょうか。ヒントは「中学校学習指導要領解説国語編」に示された詳しい分類によるとイ）は「行事の内容・・・ポスター／リーフレット／案内状／手紙　報告の文章・・・新聞／報告書」だそうです。ちなみに、３年生の学習内容に示されていないものがひとつあります。ア～ウのうち、どれでしょう（ ② ）。さらに、「中学校学習指導要領解説国語編」の中で示された文章の定義で、③④⑤に入る言葉は何でしょう。「記録：事実や事柄、経験したことや見聞きしたことなどについて、メモを取ったり、文章として（ ③ ）に書き残したりすること。　説明：ある事柄について、その内容や理由、意義などを（ ④ ）ようにして述べること。」と示されています。指導の要点としては「（ ⑤ ）に書かれたことができるようになること」と述べられています。「できるようになる」ための条件を二つ挙げられています。一つは（価値のある）「動機付け」で、もう一つは「方略指導」です。「方略指導」ではテーマに対して、ある観点に沿って根拠を取り出して立論するとともに、別の観点からも情報を取り出して反論を考えたうえで、両者を比較して再反論を立論するといった『見方・考え方』を獲得させる」ことの必要性を指摘されています。　※正解は最終ページの最後に掲載しています。　（葭仲）

教育科学「社会科教育」（明治図書）１０月号
・特集　主体的に考える力をつける！現代につなぐ歴史授業

冒頭４頁に「『〇〇力を育成する歴史授業』を問い直す。」と題して東京学芸大学の　渡部　竜也　准教授が寄稿されています。「（歴史）授業まさに今生徒が埋め込まれているこの現代社会ついての理解や世界の今後のあり方を判断することに寄与できるものにすべきだ」という考えについて、社会科歴史教育における基本として紹介されています。このような教育を通して、学校では「社会的判断力」「意思決定力」「批判的思考力」等の「〇〇力」の育成を試みるアプローチが見られるとのこと。著者はそこで育まれた「〇〇力」に疑問を投げかけられています。「研究主題」や「学問領域」が違えば、役に立たないこともある、

限定的なものであるとの批判をされています。このことについて実証研究されたものについても紹介されています。「だから歴史なんて学んでも何も身につかない」と言われているのではなく、現代にもつながる主題別、問題別に歴史教育のカリキュラムを編成するならば、その範囲の中で現代に通用するものになる可能性が強いと述べられています。少し具体的に補足させていただくと、著者は例えば「頼朝が義経の鎌倉入りを許さなかった」ことに対する考えを述べることと「コンビニの深夜営業の規制は必要か」に対する考えを述べることでは、問題が違いすぎて話がかみ合わない。しかし「幕末の開国か鎖国か」の問題は現代の「日本国政府の強国との外交関係の在り方」を考えるのに活かされるとのことです。最後に著者は「歴史学において現在の価値観から歴史を見ることは現在主義と呼ばれており、御法度の作法とされている」との注意書きをされています。そうでないと「現代に生きる私たちが当時の歴史的文脈を踏まえて考えることを軽視してしまいがちになり、そして昔の人が現代人と比べて劣っているかのような錯覚を与えてしまうことになる」ということを懸念されています。私たちは、歴史的教訓を正しく検証し、誤った方向に進まないようにしなければならないとのことです。　（葭仲）

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）１０月号
・特集　他教科との関連を軸に算数教育を捉え直す

①　実用　②ウ　③正確　④相手に分かる　⑤指導事項